

令和5(2023)年度 4年生からの評価に基づくカリキュラム評価結果

【分析目的】

1. カリキュラムの適切性を評価し、次期カリキュラムに活かす。
2. 学生の成長実感・満足度を把握し、教育の質改善に活かす。

【データ概要】

1. 4年間の学修とカリキュラムに関するアンケート

	実施日	回答方法	回答者数	(%)	
R2	R3.4.14~4.30	LINE* & MS Forms	61/87	(70.1)	*R2年度は卒業時に実施できなかったため、卒後に学年LINEにて周知し、Web上で実施した。
R3	R4.3.2~3.4	MS Forms	89/103	(86.4)	
R4	R5.2.1~3.31	MS Forms	59/95	(62.1)	
R5	R6.2.2	MS Forms	95/100	(95.0)	

2. GPS-Academic 在校生アンケート(カリキュラム評価)

4年次集団経年比較

	GPS-Academic 2020 (4年次)	GPS-Academic 2021 (4年次)	GPS-Academic 2022 (4年次)	GPS-Academic 2023 (4年次)
受検者	87/87名(100%)	102/103名(99.0%)	91/95名(95.8%)	98/100名(98.0%)
日時	2021.3.1~2021.3.3	2021.12.7~2021.12.14	2022.12.5~2022.12.12	2023.12.22~2024.1.7
場所*	PC教室	PC教室	PC教室	PC教室

*日時欄に記載された初日に受検できなかった学生は自宅で受検した。

【分析方法】

下記のとおり、評価の視点に沿って、学生からの評価をもとに分析した。

評価の視点	評価データ
1. カリキュラムの構成、科目の学年配置は適切か	4年間の学修とカリキュラムに関するアンケート： 学習内容、教育方法、成績評価、科目の学年配置、機会・環境の提供、学習量、主体的学習等に関する21項目
2. 授業は学士力・社会人力等の能力獲得に役立ったか	GPS-Academic 授業の役立ち度： 論理的・批判的思考力、数量的・統計的スキル、情報リテラシー、問題解決力、チームワーク・リーダーシップ、プレゼンテーションスキル、ディスカッションスキル、コミュニケーションスキル、文章作成力、語学力
3. 主体的に学べるカリキュラムか	GPS-Academic 授業評価： 単位修得の考え方、授業レベル、課題量、教員との距離、自由な発言や議論の場、周囲の学生の意識 GPS-Academic 学びへの取り組み： 予習・復習、グループワーク、ノートテイキング、学習不明点への対処、授業外の学び
4. 学生自らが成長を実感し、大学教育・学生生活に満足しているか。	GPS-Academic 成長実感 GPS-Academic 学部のお勧め度 GPS-Academic 大学教育・学生生活への満足度

【分析結果の概要】

1. カリキュラムの構成、科目の学年配置は適切か。

『4年間の学修とカリキュラムに関するアンケート』結果では、学習内容、教育方法、成績評価、科目の学年配置、機会・環境の提供、学習量、主体的学習等に関する21の評価項目中20項目で平均3.0以上（4点満点）であり、学生からの評価は概ね良好であった。❖ p.3-4

2. 授業は学士力・社会人力等の能力獲得に役立ったか。

『論理的・批判的思考力』『数量的・統計的スキル』『情報リテラシー』『問題解決力』『チームワーク・リーダーシップ』『プレゼンテーションスキル』『ディスカッションスキル』『コミュニケーションスキル』『文章作成力』については8割以上が「とても/まあ役に立っている」と回答し、概ね役立ったと評価できる。しかし、『語学力』は4割弱に留まっているため、検討が必要である。❖ p.5

3. 主体的に学べるカリキュラムか。

学生からの授業評価では『周囲の学生の意識が高い』『自由な発言や議論の場が多い』『教員との距離が近い』と主体的に学べる学習環境につながる評価がある一方、『課題が多く、負荷が高すぎる』『授業のレベルが高すぎる』という評価もある。❖ p.6

学びへの取り組みについては、授業への積極的参加やノートテイキングといった授業中の取り組みの実施度が8~9割と高い一方、予習・復習や授業外の自主学習、教員への質問・相談といった授業外での取り組みの実施度は5~7割である。しかし、予習・復習や授業外の自主学習については、実施率がこの4年で2割程度増加しており、改善傾向にあるため、引き続き、注視していく。❖ p.7

4. 学生自らが成長を実感し、大学教育・学生生活に満足しているか。

成長実感については、過去4年間、9割以上の学生が成長を「強く/やや実感する」と回答し、学部のお勧め度についても、今年度は9割の学生が「とても/まあ勧めたい」と回答している。大学教育・学生生活に対する満足度は『友人との人間関係』『カリキュラム』『教員』『授業内容』について9割以上の学生が、『学生窓口対応』『就職・進路支援』『キャンパス環境・学生サービス』について7~8割の学生が「とても/まあ満足している」と回答した。一方、『留学・国際交流支援』『語学教育・語学力向上支援』については約半数に留まっており、検討が必要である。❖ p.8-9

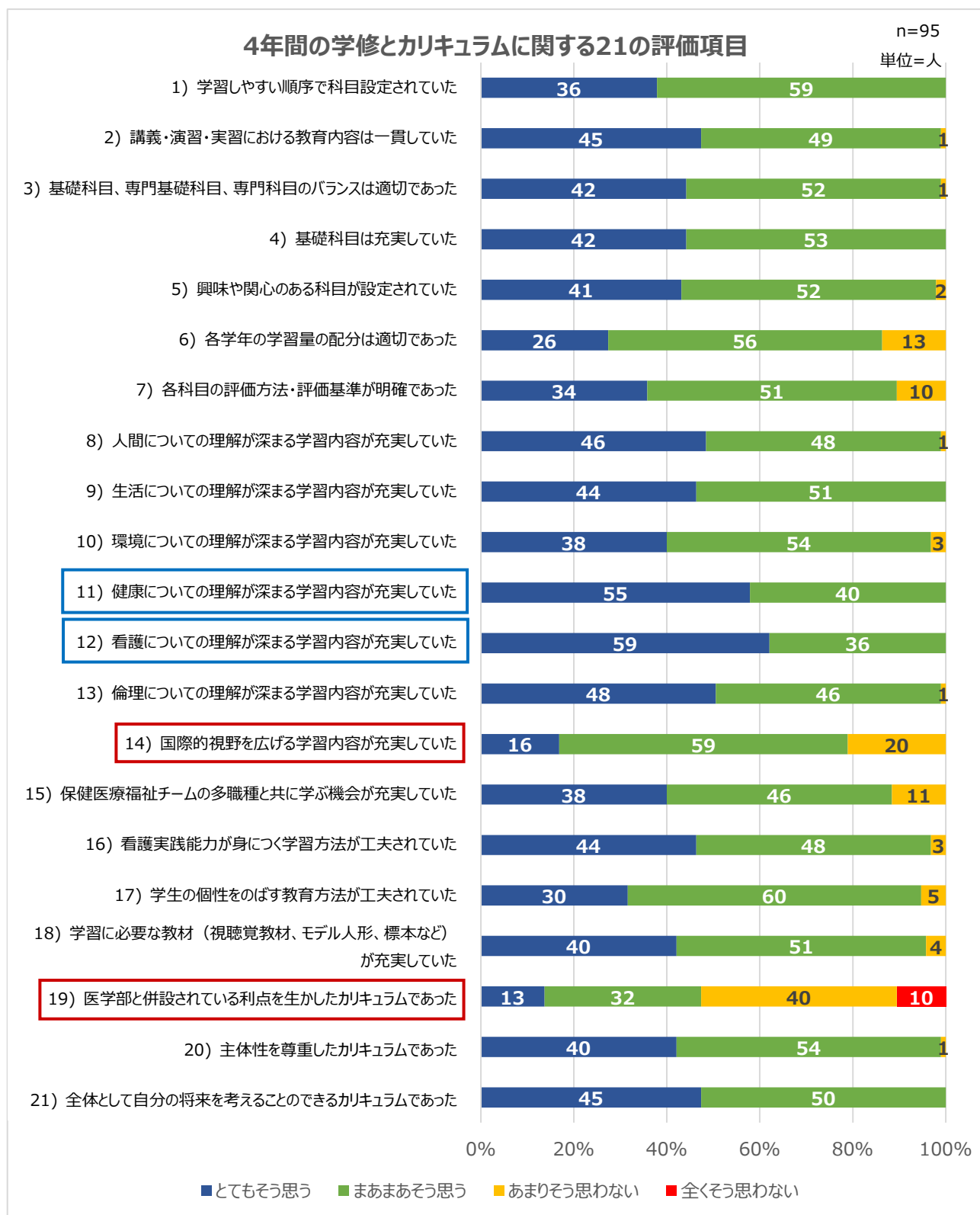
【改善の余地がある事項】

- ①「医学部と併設されている利点を生かしたカリキュラムであった」は約半数が「あまり/全くそう思わない」と回答し、次いで「国際的視野を広げる学習内容が充実していた」について約2割の学生が「あまり/全くそう思わない」と回答した。❖ p.3
- ②語学力については約6割が授業が「まったく/あまり役に立っていない」と回答した。❖ p.5
- ③約半数の学生が『課題が多く、負荷が高すぎる』と回答した。また、授業外での取り組みの実施度は5~7割である。❖ p.6-7
- ④満足度では、「まったく/あまり満足していない」との回答（2023年度の結果）が3割を超えた項目は、『留学・国際交流支援（47.7%）』『語学教育・語学力向上支援（45.3%）』であった。❖ p.9

【結果】

1. R5(2023)年度『4年間の学修とカリキュラムに関するアンケート』結果

学生評価が高い項目は「看護についての理解が深まる学習内容が充実していた」「健康についての理解が深まる学習内容が充実していた」であった。一方、「医学部と併設されている利点を生かしたカリキュラムであった」は約半数が「あまり/全くそう思わない」と回答し、次いで「国際的視野を広げる学習内容が充実していた」について約 2 割の学生が「あまり/全くそう思わない」と回答した。

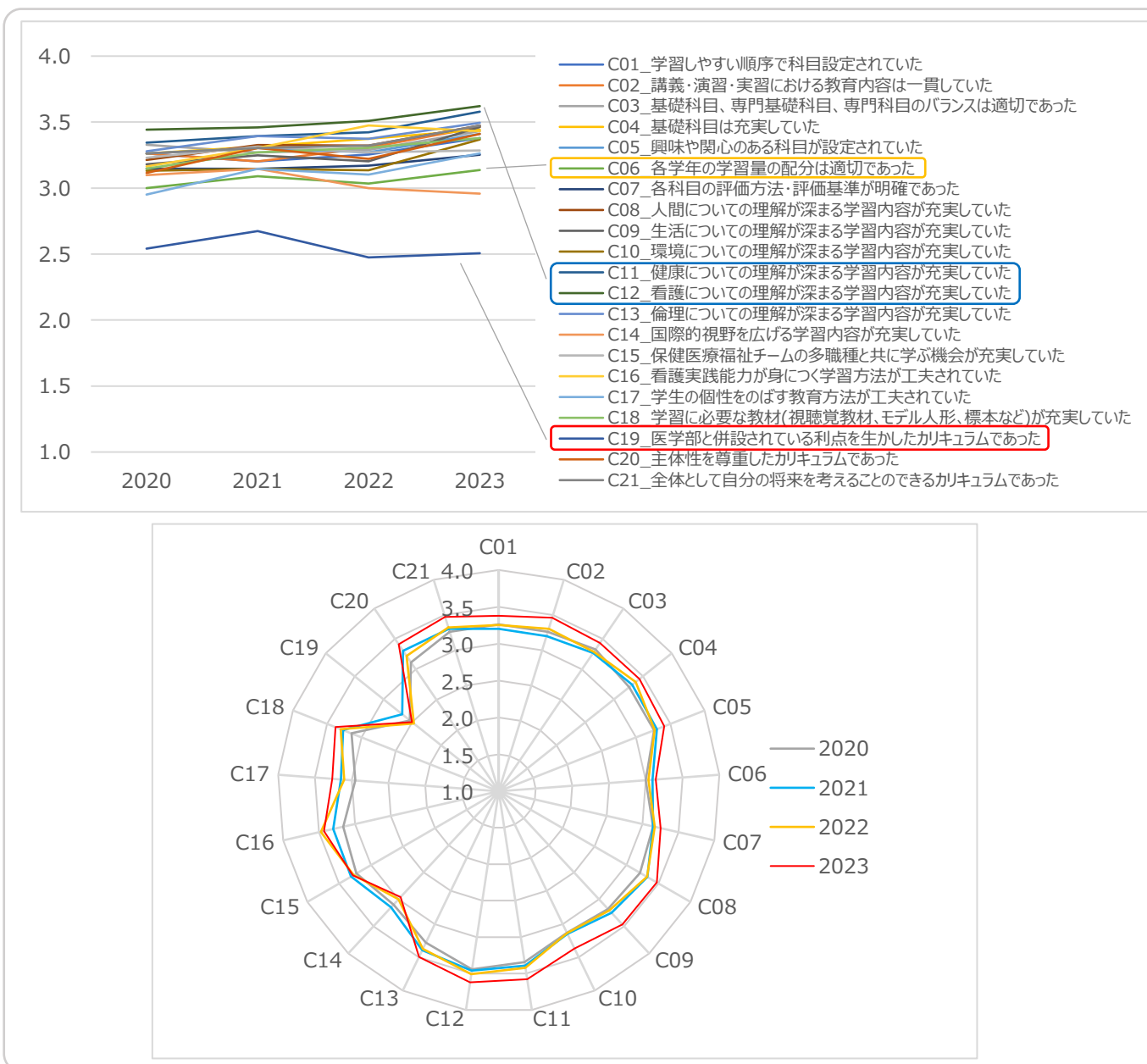


R2-R5(2020-2023)年度『4年間の学修とカリキュラムに関するアンケート』経年比較結果

過去4年間を比較すると、各項目の平均点は全体的に漸増しており、「看護/健康についての理解が深まる学習内容が充実していた」の評価が高く、「医学部と併設されている利点を生かしたカリキュラムであった」の評価が低い傾向が継続している。昨年まで低めの評価であった「各学年の学習量の配分は適切であった」についてはわずかに改善した。

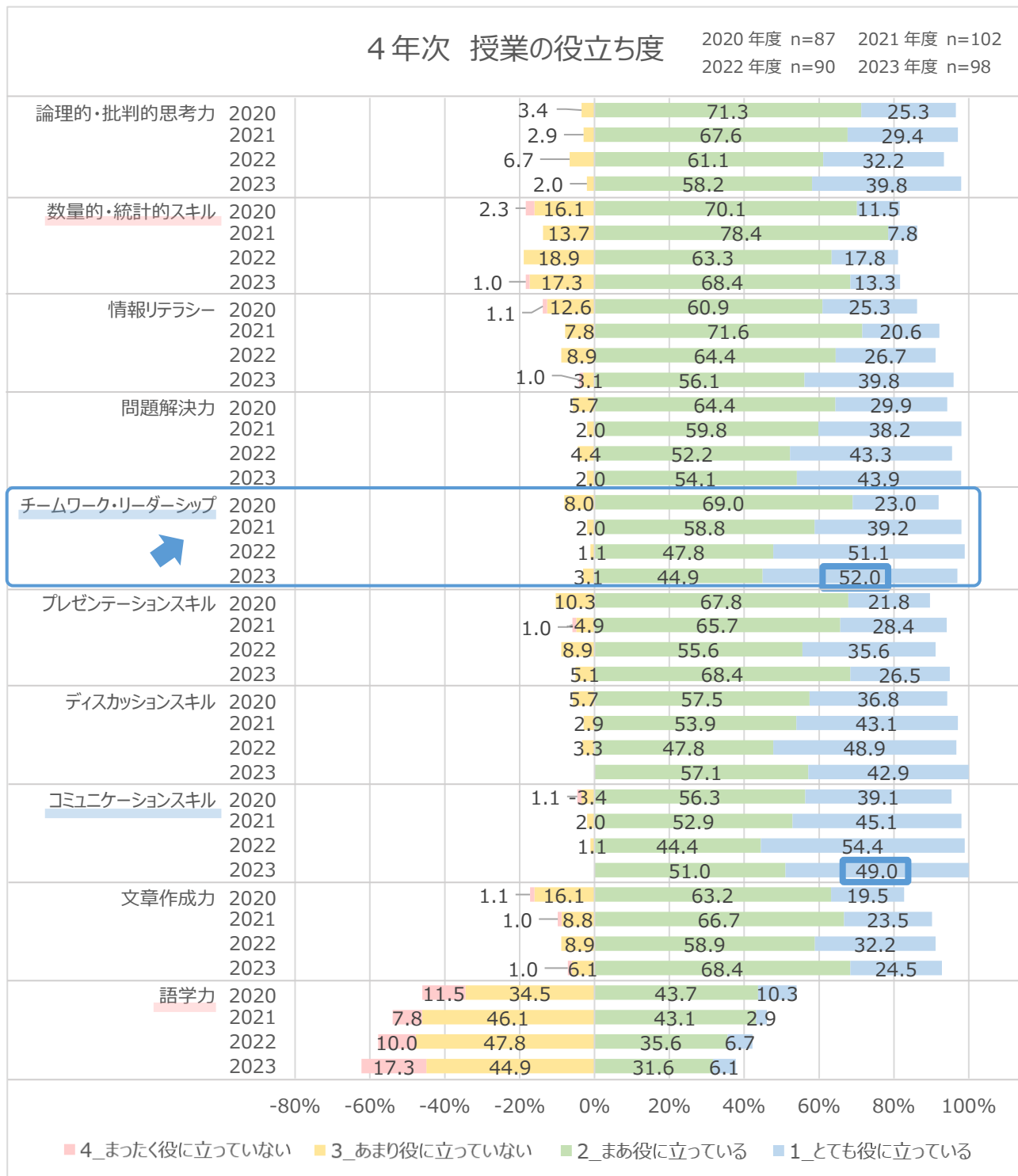
「医学部と併設されている利点を生かしたカリキュラムであった」以外の項目は平均3.0を超えており、学生からのカリキュラム評価としては概ね良好であった。

項目別カリキュラム評価の平均点の推移（卒業年度：2020年～2023年）



2. R2-R5(2020-2023)年度 4 年次 GPS-Academic 《カリキュラム評価》経年比較結果

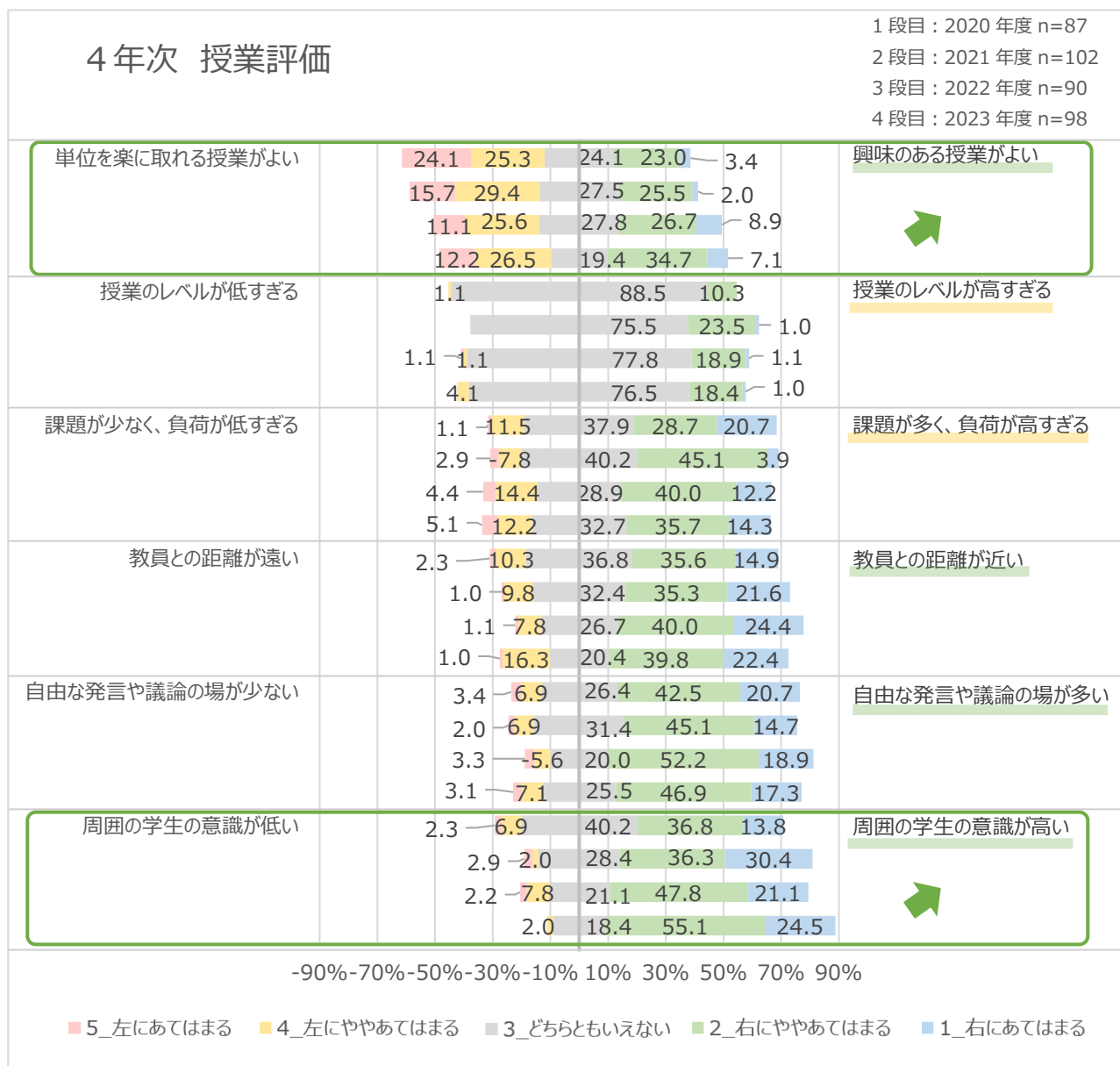
1) 授業の役立ち度



授業の役立ち度については、多くの項目で9割以上が「とても/まあ役に立っている」と回答したが、『語学力』は約6割が、『数量的・統計的スキル』は2割弱が「まったく/あまり役に立っていない」と回答した。一方、『チームワーク・リーダーシップ (52.0%)』と『コミュニケーションスキル(49.0%)』では、約半数が「とても役に立っている」と回答した。

経年変化では、各項目で大きな変化は見られないが、『チームワーク・リーダーシップ』について「とても役に立っている」と回答した割合が増加傾向 (23.0%→39.2%→51.1→52.0%) であった。

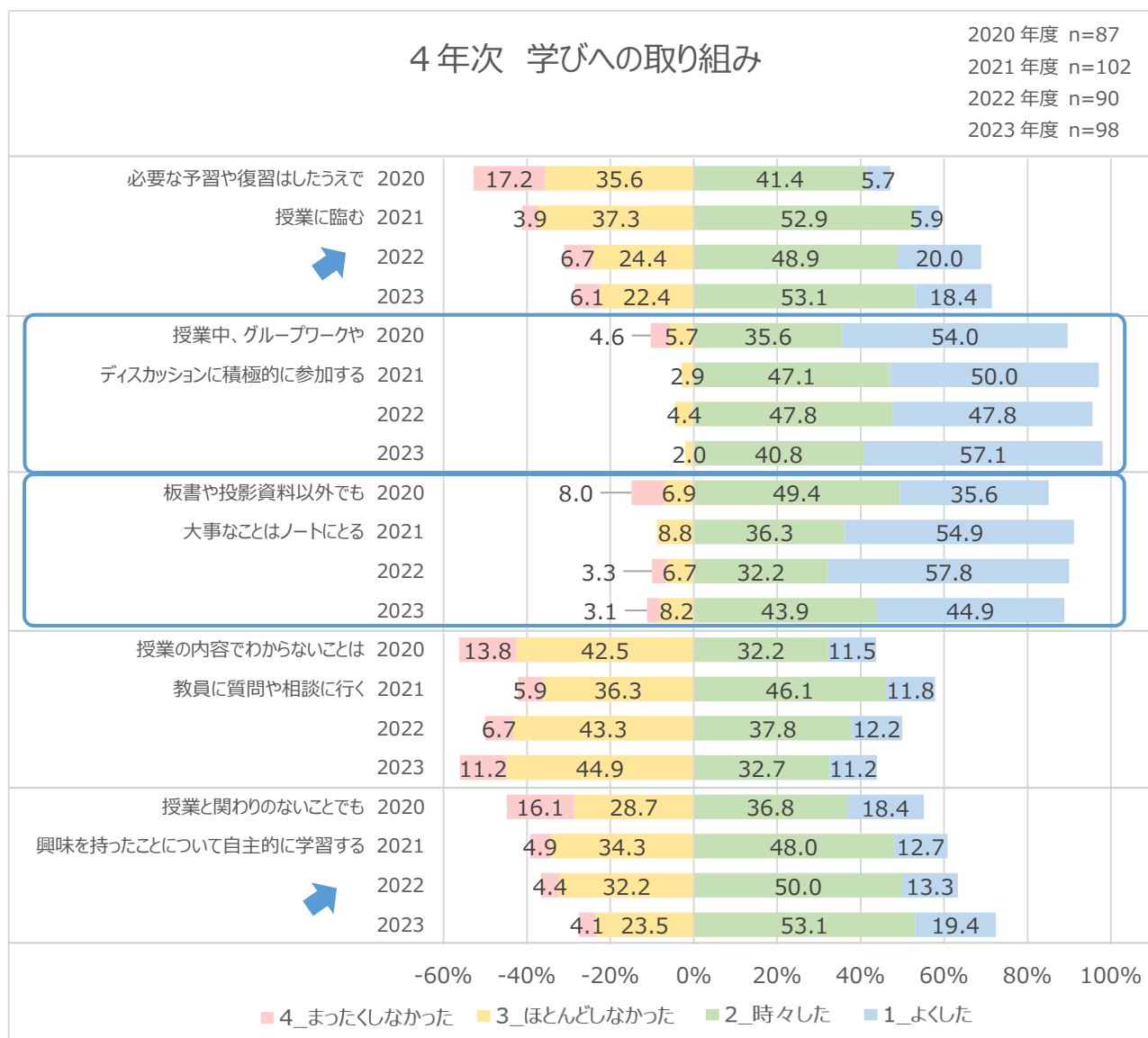
2) 授業評価



授業評価の全体的な傾向として、『興味のある授業がよい』『授業のレベルが高すぎる』『課題が多く、負荷が高すぎる』『教員との距離が近い』『自由な発言や議論の場が多い』『周囲の学生の意識が高い』に「あてはまる」「ややあてはまる」と回答した学生が多かった。

経年変化では、『単位を楽に取れる授業がよい』に「あてはまる」「ややあてはまる」と回答する学生が『興味のある授業がよい』に「あてはまる」「ややあてはまる」と回答する学生より多かった傾向（2020：49.4%-26.4%、2021：45.1%-27.5%）が、昨年度はほぼ同率（36.7%-35.6%）となり、今年度は僅かに逆転（38.7%-41.8%）した。また、『周囲の学生の意識が高い』について「あてはまる」「ややあてはまる」と回答した割合が増加（50.6%→66.7%→68.9→79.6%）していた。

3) 学びへの取り組み

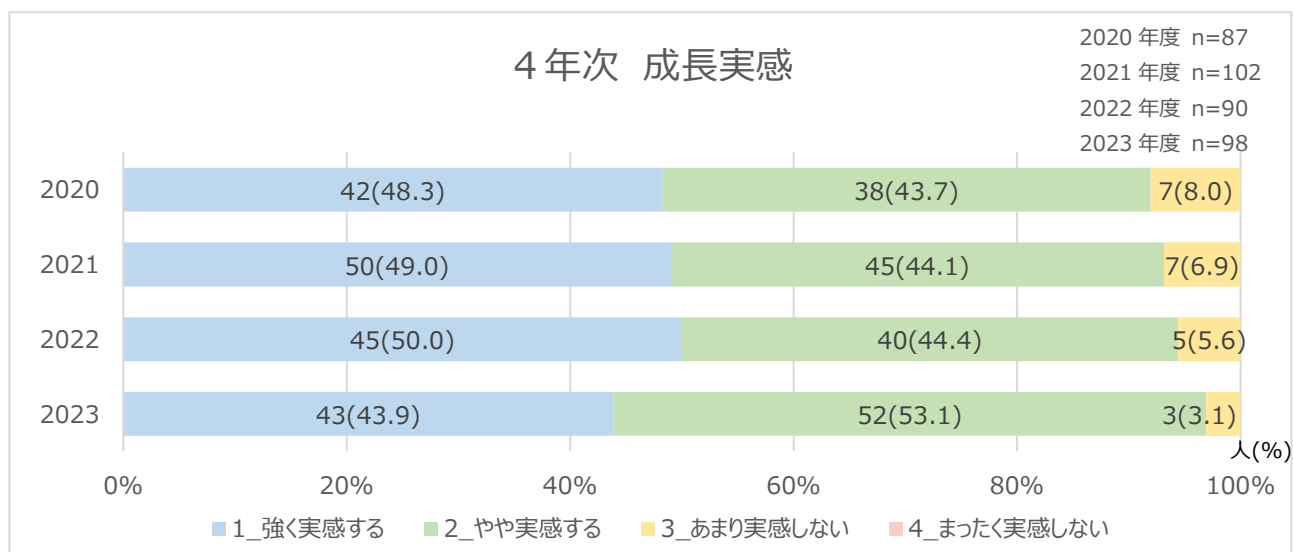


学びへの取り組みでは、「授業中、グループワークやディスカッションに積極的に参加する」「板書や投影資料以外でも大事なことはノートにとる」ことについて「よく/時々した」と回答した学生が 8~9 割程度であった。一方、「必要な予習や復習はしたうえで授業に臨む」「授業と関わりのないことでも興味を持ったことについて自主的に学習する」「授業の内容でわからないことは教員に質問や相談に行く」ことについて「よく/時々した」と回答した学生は 5~7 割程度であった。

経年変化では、『必要な予習や復習はしたうえで授業に臨む』について「よく/時々した」と回答した学生が増加傾向（47.1%→58.8%→68.9%→71.5%）、『授業と関わりのないことでも興味を持ったことについて自主的に学習する』について「よく/時々した」と回答した割合が増加傾向（55.2%→60.7%→63.3%→72.5%）であった。一方、『授業でわからないことは教員に質問や相談に行く』について「よく/時々した」と回答した学生は 2020 年度に近い値に戻る形となった（43.7%→57.9%→50.0%→43.9%）。

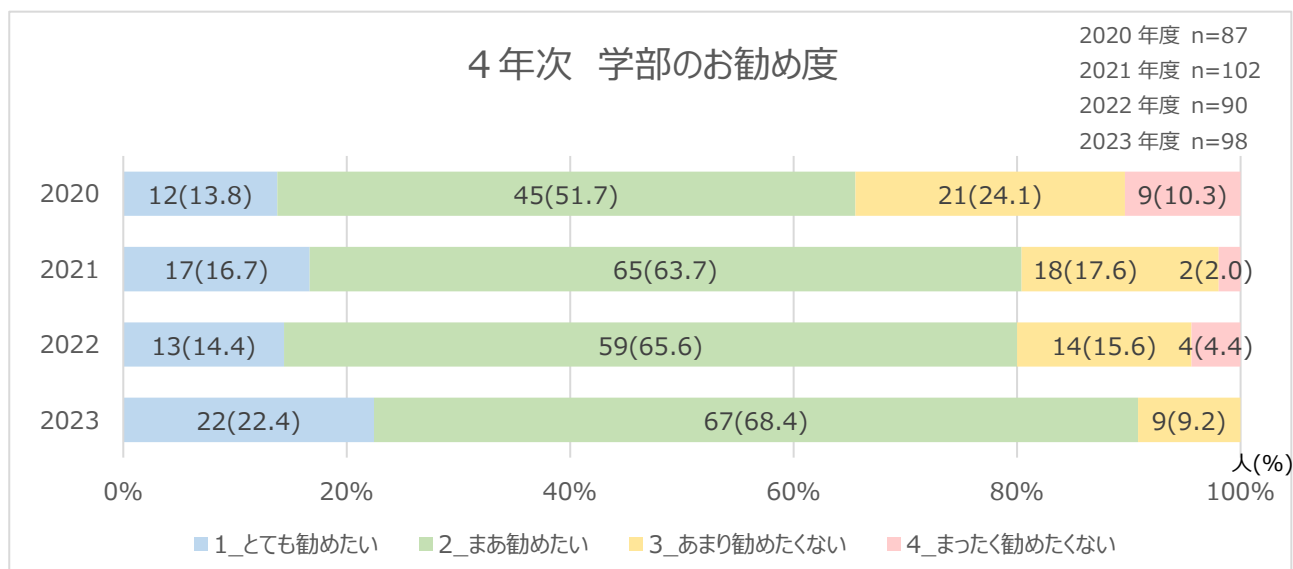
授業への積極的参加やノートテイキングといった授業中の取り組みの実施度が 8~9 割と高い一方、予習・復習や授業外の自主学習、教員への質問・相談といった授業外での取り組みの実施度は 5~7 割で継続している。予習・復習や授業外の自主学習といった授業外での取り組みの実施度が改善傾向にあるため、今後の状況を注視する。

4) 成長実感



過去 4 年間、9 割以上が成長を「強く/やや実感する」と回答しており、2023 年度は約 4 割が「強く実感する」と回答している。

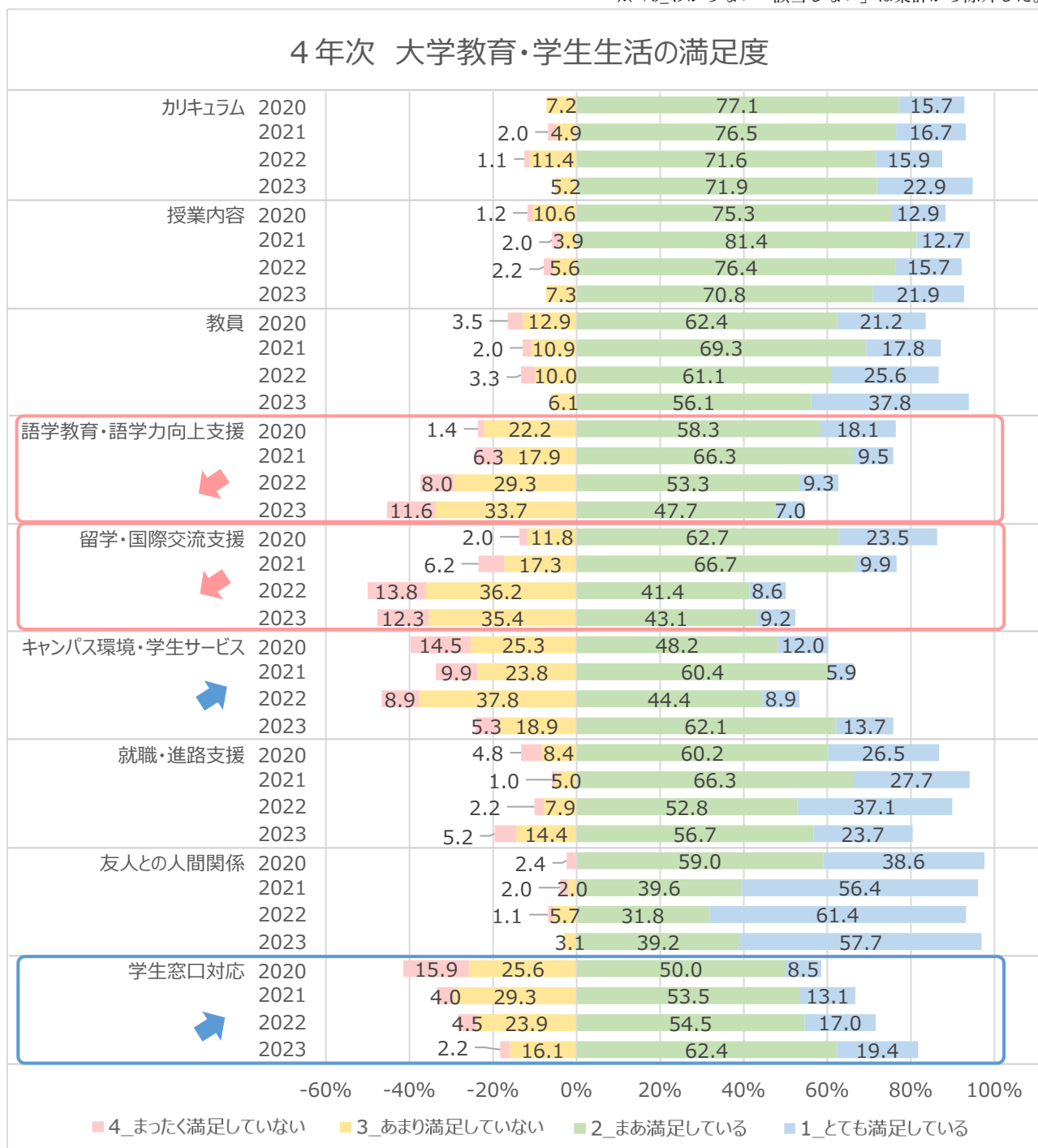
5) 学部のお勧め度



今年度は約 9 割が学部を「とても/まあ勧めたい」と回答し、その割合は増加傾向（65.5%→80.4%→80.0%→90.8%）にある。今年度は「まったく勧めたくない」と回答した学生はいなかった。

6) 大学教育・学生生活の満足度

※「5_わからない・該当しない」は集計から除外した。



大学教育・学生生活については、『友人との人間関係』『カリキュラム』『教員』『授業内容』について9割以上の学生が、『学生窓口対応』『就職・進路支援』『キャンパス環境・学生サービス』について7~8割の学生が「とても/まあ満足している」と回答した。一方、『語学教育・語学力向上支援』『留学・国際交流支援』については「とても/まあ満足している」と回答した学生は約半数に留まっている。

経年変化では、「とても/まあ満足している」と回答した割合が『学生窓口対応』で増加傾向にあり(58.5%→66.6%→71.5%→81.8%)、『キャンパス環境・学生サービス』では昨年度に比べ53.3%→75.8%と増加した。一方、『留学・国際交流支援』『語学教育・語学力向上支援』では、2022-2023年度は2020-2021年度に比べ、満足度が低い結果となった。Covid-19感染対策の影響は否定できないが、満足度が低下している項目については、引き続き、検討が必要である。